

セキュリティ技術者養成センター

(実施期間：平成13～17年度)

実施機関：早稲田大学理工学部（代表者：村岡 洋一）

人材養成の概要

本課題は、企業に蓄積されたセキュリティ技術のノウハウを学問として体系化し、それを元にした体系的教育を施された学生を輩出し、ならびにそれに基づいた抜本的に新しいセキュリティ技術の研究・開発を推進するものである。具体的には、次のことを実施する。

企業との協力により、体系的なセキュリティ技術教育のための標準的カリキュラムを策定する。また、このカリキュラムに基づく電子化教材を作成し、これをインターネットで公開し、インターネット授業として提供することにより、学外の技術者教育にも参画する。

企業のセキュリティ技術者が参加する人材養成講座を設けて、実際的な知識・技術の習得を可能とすることにより、一流の学士/修士レベルのセキュリティ技術者育成を図る。企業と協力して、企業研究者によるセキュリティ講座ならびに研究指導など、一流セキュリティ技術者・研究者とのチーム研究に大学院学生を参加させることにより、一流の博士レベルの研究者を育成する。

(1) 総評

当初計画にしたがって実施しているが、体系的なカリキュラムが整備されていないなど、改善すべき点が見受けられる。ただ単に講義科目を設置して学生に任意で選択受講させるのではなく、セキュリティ技術者養成プログラムとして必要な要件をまず洗い出し、系統化された標準的なカリキュラムを策定し、それに基づいて実施すべきである。なお、実施するにあたっては、情報セキュリティを専門とする人材を追加するなど、策定された標準的なカリキュラムに基づいて教育を行うことのできる者を人材養成業務従事者として招聘し、スタッフの充実を図るべきである。

<総合評価：c.現状のままでは十分な成果が期待できない取組である>

(2) 評価結果

進捗状況（目標達成度）

当初計画にしたがって、概ね順調に進捗している。

計画の妥当性

セキュリティ分野で必要とされている講義・実習項目について不十分な点が見受けられる。また、実態は大学院学生向け2講義・学部生向け1講義が設置されているにすぎず、セキュリティ技術者を体系的にカリキュラムが整備されていないこともあり、現状の計画が妥当であるとは言い難い。

人材養成の成果

計画どおり実施されているが計画自体に不十分な点があるため、養成され

る人材の有用性や将来性は十分期待できるとは言えない。また、従来の大学で開講されている講義と本人材養成プログラムによるそれとの違いが明確とはいえず、本計画で目標としている一流の人材が養成されることはあまり期待できない。一方、他大学へ出張講義を行っており、波及効果は概ね期待できる。情報発信は、副次的な成果の公表程度にとどまっており、今後は人材養成への取り組みを他の人材養成機関へ向けて発信することが期待される。

実施体制

企業から客員教員を招聘するなど、代表者の指導性は概ね発揮されていると考えられるが、実施機関は本来の講義の枠組みを提供するにとどまり、組織として積極的に関与しているとは言えない。協力機関（日本電気、富士通研究所、ネットワークリスクマネジメント協会）との連携は、概ね効果的であると言える。

実施期間終了後における取組の継続性・発展性の見通し

すでに開講している講義は、実施機関の学生向け講義として組み込まれていて、継続性は期待できる。一方、今後の発展のためには、現在取り組んでいるセキュリティ技術教育のための科目に、実務的な技術を取得させる実習科目を追加するなどして、この分野の実践的な人材を養成する体系的なカリキュラム策定を行い、それに基づいて実施していく必要がある。

(3) 評価結果

総合評価	今後の進め方	進捗状況	計画の妥当性	人材養成の成果				
				人材の有用性・将来性	実施内容の有用性・効果	人材養成の方策	ユニットの波及効果	情報発信
c	b	-	-	-	-	-	-	-

実施体制			継続性・発展性
代表者の指導性	実施機関の組織的な関与	関係機関との連携	
-	-	-	-

新興分野人材養成については、「総合評価」及び「今後の進め方」の2項目のみについて、各評価項目に関する議論を踏まえた上で、WGとしての評価結果を決定した。しかしながら、他のWGと異なり、他の評価項目については、WGにおいて意見の集約を行わなかったため、この部分を空欄としている。